

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月22日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20320117

研究課題名（和文） 西欧中世文書の史料論的研究

研究課題名（英文） New Approaches to Medieval European Diplomatics

研究代表者

岡崎 敦（OKAZAKI ATSUSHI）

九州大学・大学院人文科学研究院・教授

研究者番号：40194336

研究成果の概要（和文）：

本研究は、西欧中世文書史料を対象として、近年の西欧中世史料学・史料論研究の動向を整理・分析し、重要な論点を提示・検討することを目的とした。この際、西欧の主要地域や学界を広く視野におさめるとともに、比較史的観点を重視した。以上の目的を遂行するため、ときにゲスト研究者を招聘しながら、定期的にテーマを特定した研究会・シンポジウムを開催した。研究の成果は、個別論文や学会報告として公表するとともに、毎年度年次成果報告書を刊行して公開した。

研究成果の概要（英文）：

This project research presented as the main aim the examination of current research trends in Diplomats, Study of Documents, in Medieval Europe. On this occasion, attentions were paid particularly to an extension of the research problematic and a comparative viewpoint. Several meetings and colloquium were regularly held, and the results of the project were published every year in the form of the annual report.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
2009年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2010年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2011年度	2,500,000	750,000	3,250,000
年度			
総計	13,800,000	4,140,000	17,940,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：中世史、史料研究、比較・交流史

1. 研究開始当初の背景

近年、歴史学の実証基盤を揺るがす批判が多方面から提出されているが、実証的歴史学の立場から、このような動向を批判的に摂取し、対峙するためのもっとも有効な手段として、史料論に関わる問題関心がある。史料は現実

の関係では何を語っているのか（史料の生成）、我々がそれを見ることが出来るのはなぜなのか（史料の伝来）、そもそも現実を「史料」として認識する歴史家の作業とは何か（歴史家の史料認識論）、などの問いかけがそれぞれある。この際、伝統的に、西欧の史料学研究

において中心的な地位を占めてきた文書系史料についての研究動向を調査して、現在、史料学・史料論研究の最前線でどのような努力が積み重ねられ、新しい発想による研究が、いかなる論点を提示しているかを検討することは、以上の課題にそなえるための絶好の観測台の一つと考えられる。

2. 研究の目的

本研究は、西欧中世文書史料を対象として、近年の西欧中世史料学・史料論研究の動向を整理・分析し、重要な論点を提示・検討することを目的とする。研究の成果は、「西欧中世文書の史料論的研究に関する研究の現状と展望」としてまとめる。この際、西欧の主要地域や学界を広く視野におさめるとともに、日本史、中国史、イスラム文明史等との研究協力を組織することによって、比較史的観点を重視した共同研究を展開して、論点の明確化に努める。

3. 研究の方法

本研究は、大きく以下の二つの活動に分けられる。

(1) 欧米学界の研究動向の網羅的調査とその検討結果の公表。具体的には、組織的・体系的に関連情報を収集し（書籍、論文、研究集会、学位論文、雑誌特集など）、その内容を研究会において共同で検討する。

(2) 共同研究の組織化。欧米の研究者や、日本の他領域の専門家と協力して、史料学・史料論についての共同研究を組織することである。

4. 研究成果

本研究により、西欧中世文書の史料論的研究が、歴史情報の認識や解釈に直接関わる論点を多く提示していることを確認するとともに、実証研究のあり方自体についての省察を要求する展望を持つことを明らかにした。とりわけ、明確な研究、運営方針に基づいて継続的な共同研究を続けることで、史料論研究の体系的な検討の基盤を形成し、他の分野との比較を参照軸を提供することができた。具体的には、様式論のみならず、史料の機能や関係についての認識を深めることで、歴史情報としての史料現象の理解を深化させた。また、趣旨に賛同する多数の研究者をゲスト報告者、コメンテーターとして招聘するなど、この分野の研究の全般的活性化と研究者の交流に寄与した。具体的には、以下のような活動を展開した。

(1) 4年間に11回にわたる研究会を、多様なテーマで組織することにより、西欧中世文書史料研究に関する最先端の動向を全般的に検討した。具体的には、最初に文書史料の理解をめぐる基礎的な研究、問題状況を検討した上で、私文書、リテラシー、都市における文書実践、カロリング文書、非訴裁治権など、近年欧米では熱い注目を集めながら、我が国では未開拓のテーマを積極的に取り上げ。

(2) 欧米の研究者を招聘しての研究会を開催し、最先端の動向について相互交流する場を多数設定した。さらに、毎回、比較史のセッションを設けて、日本史の研究者との学術交流を促進した。

(3) 最終年度には、総括研究会を開催し、碑文、ハウスフォールド、公証、言語、アーカイブズ論など、新しい展望を開くテーマについて検討した。また、書き下ろしによる史料論の学界動向論文集をまとめた。

(4) 研究成果を、毎年度、年次報告書として刊行するとともに、ホームページでも直ちに公開した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計14件)

① 足立孝、遍在する「辺境」—スペインからみた紀元千年—(上)、人文社会論叢(人文科学篇)、査読無、21、2009年、59-75

② 足立孝、遍在する「辺境」—スペインからみた紀元千年—(下)、人文社会論叢(人文科学篇)、22、査読無、2009年、43-62

③ 足立孝、9-11世紀ウルジェイ司教座聖堂教会文書の生成論—司教座文書からイエ文書へ、イエ文書から司教座文書へ—、西洋中世研究、査読有、1、2009年、87-105

④ ARIMITSU, Hideyuki, Memories and Communications in the Medieval Irish Sea World, *The East Asian Journal of British History*, 査読有、1, 2011, 55-62

⑤ 大宅明美、十三世紀フランスにおける王権のコミュニヌ政策と都市内諸権力—ルーアンとポワチエのコミュニヌ文書の比較検討から—、史学研究、査読有、265、2009、19-36

⑥ 大宅明美、中世フランスにおける都市カルテュレルの作成と伝来に関する一考察—ポワチエの「マニユスクリ・サン=ティレル」をめぐって—、西洋史学報、査読有、37、2010年、33-56

⑦ 岡崎敦、メロヴィング期フランク王国と修

道院、道標、査読無、31、2010年、2-15

⑧岡崎敦、アベラールとは誰か ―西欧中世の史料論と知識人をめぐる二重の考察―、日仏歴史学会会報、査読無、25、2010年、4-6

⑨岡崎敦、教会訴訟外裁治権の形成(12世紀)―パリ司教文書の分析―、史淵、査読無、147、2010年、57-89

⑩岡崎敦、西欧中世における記憶の管理とアーカイヴズ ―パリ司教座教会のあるカルチュレールをめぐって(Liber Niger)―、史淵、査読無、146、2009年、141-171

⑪岡崎敦、アーカイヴズと歴史研究、日仏歴史学会会報、査読無、23、2008年、6-8

⑫TANGE, S., Forgerons et forges dans le prisme des documents carolingiens. Entre indépendance et dépendance, *Kumamoto Journal of Culture and Humanities*, 101, 2010, 11-19.

⑬花田洋一郎、中世後期フランス都市行財政諸記録の性格と機能について ―都市会計簿と都市議事録を中心に―、西南学院大学経済学論集、査読無、44/4、2009年、87-123

⑭山田雅彦、中世後期アミアンにおける契約登記簿の誕生 ―都市自治体による非訟裁治権<jurisdiction gracieuse>の行使を軸として―、史窓、査読有、68、2011年、421-444

〔学会発表〕(計13件)

①岡崎敦、西洋中世史料論研究の視角から、イスラーム地域研究「文部科学省 特色のある共同研究拠点の整備の推進事業」による公募研究 平成23年度合同成果報告会、2012年3月17日、於早稲田大学

②岡崎敦、現代アーカイヴズ理論と西洋中世史料論研究、西欧中世史料論研究会「西洋中世史料論の射程」特集研究会、2011年12月18日、於九州大学

③岡崎敦、アーカイヴズ学とは何か、九州大学附属図書館研究開発室/大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻主催連続講演会「ライブラリーサイエンスの現在」、2011年07月20日、九州大学

④岡崎敦、コメント、韓国古文書学会/国文学研究資料館/韓国学中央研究院韓国学資料センター共催国際研究集会「東アジア近世契約文書の諸様相」、2011年1月8日(土)、於韓国学中央研究院講堂会議室

⑤岡崎敦、西欧中世の書物と蔵書 ―方法論と諸成果―、平成22年度九州史学会全体シンポジウム「蔵書目録 ―知の表象の世界―」、2010年12月11日、於九州大学

⑥岡崎敦、非訟裁治権とはなにか ―教会とフランス王権を中心に―、西欧中世史料論研究会「西欧中世における訴訟と非訟裁治権」特集「フランス中世における非訟裁治権」シンポジウム、2010年9月4日、於九州大学

⑦岡崎敦、アベラール再論 ―西欧中世の知識人をめぐる省察、日仏歴史学会第2回研究大会、2010年3月27日、於奈良女子大学

⑧岡崎敦、12世紀の西欧知識人をめぐる諸問題、「教会と社会」研究会 シンポジウム「12世紀ルネサンスの精神：甚野尚志氏の近著をめぐって ―西欧文明と12世紀の意義、思想史研究再考、「教会と国家」論の現在―」、2009年12月19日、於早稲田大学戸山キャンパス39号館6階第七会議室

⑨岡崎敦、手書き資料の<考古学>―西欧中世史料学とテキスト学―、人間文化研究機構総合推進事業活動提案「人間文化研究資料の多元的複眼的比較研究」2009年度第1回研究会「人文諸学における素材と方法の変化」、2009年8月17日、於国文学研究資料館

⑩岡崎敦、リテラシー研究の現在 ―西欧中世史から―、九州歴史学研究会/西欧中世史料論研究会「リテラシー研究の最前線 ―西欧中世史から―」、2008年12月6日、於西南学院大学

⑪岡崎敦、コメント、国際ワークショップ「前近代東アジア文書の比較的研究」、九州大学大学院人文科学研究院/比較社会文化研究院 歴史学拠点コース、2008年11月20日、於九州大学

⑫岡崎敦、中世パリ司教座教会における偽文書作成(11-12世紀)、第10回七隈史学会大会、2008年9月27日、於福岡大学

⑬岡崎敦、西欧中世の証書 ―問題関心の変容と研究の展望―、西欧中世史料論研究会「文書史料とはなにか」、2008年7月5日、於九州大学

〔図書〕(計12件)

①ARIMITSU, Hideyuki (共著), *England Law before Magna Carta*, Brill, 2010, 27-40

②足立孝(共著)、世界歴史大系スペイン史1(古代~中世)、山川出版社、2008年、198-247

③岩波敦子(共著)、名誉の原理、国際書院、2010年、13-36

④大宅明美、中世盛期西フランスにおける都市と王権、九州大学出版会、2010年、366

⑤岡崎敦編、西欧中世文書の史料論的研究 平成23年度研究成果年次報告書、九州大学大学院人文科学研究院、2012年、176

⑥岡崎敦編、西欧中世文書の史料論的研究 平成22年度研究成果年次報告書、九州大学大学院人文科学研究院、2011年、102

⑦岡崎敦編、西欧中世文書の史料論的研究 平成21年度研究成果年次報告書、九州大学大学院人文科学研究院、2010年、112

⑧岡崎敦(共著)、フィロロジーの射程、九州大学文学部、2010年、1-9、49-67

⑨岡崎敦編、西欧中世文書の史料論的研究 平成20年度研究成果年次報告書、九州大学

大学院人文科学研究院、2009年、100

⑩丹下栄（共著）、ヨーロッパ/エリート支配と政治文化、成文堂、2010年、85-110

⑪徳橋曜（共著）、環境と歴史学 歴史研究の新地平、勉誠出版、2010年、82-89

⑫山田雅彦編、伝統ヨーロッパとその周辺の市場の歴史、清文堂出版、2010年、316

〔翻訳〕（計2件）

①オリヴィエ・ギョジャン、オリヴィエ・ポンセ、岡崎敦共訳、フランスにおける国家アーカイブズ—中央および地方、12-18世紀、国文学研究資料館アーカイブズ系編、『中近世アーカイブズの多国間比較』、岩田書院、2009年、41-58

②ブノワ＝ミシェル・トック、岡崎敦訳、西欧中近世におけるアーカイブズ（6-18世紀）、古文書研究、65、2008年、71-88

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

http://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/~his_wes_t/siryo_ron/siryoron_frame.html

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡崎 敦 (OKAZAKI ATSUSHI)

九州大学・大学院人文科学研究院・教授

研究者番号：40194336

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

丹下 栄 (TANGE SAKAE)

熊本大学・文学部・教授

研究者番号：10179921

山田 雅彦 (YAMADA MASAHIKO)

京都女子大学・文学部・教授

研究者番号：90202382

花田 洋一郎 (HANADA YOICHIRO)

西南学院大学・経済学部・教授

研究者番号：40284476

大宅 明美 (OHYA AKEMI)

九州産業大学・経済学部・教授

研究者番号：80258342

森 貴子 (MORI TAKAKO)

愛媛大学・教育学部・准教授

研究者番号：10346661

城戸 照子 (KIDO TERUKO)

大分大学・経済学部・教授

研究者番号：10212169

徳橋 曜 (TOKUHASHI YO)

富山大学・人間発達学部・教授

研究者番号：30242473

足立 孝 (ADACHI TAKASHI)

弘前大学・人文学部・准教授

研究者番号：90377763

岩波 敦子 (IWANAMI ATSUKO)

慶應義塾大学・理工学部・教授

研究者番号：60286648